


<p>【氏名】 高田 朝子 福岡県生まれ 東京育ち</p>	
<p>【現職】 法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科 教授</p>	
<p>【学生へのメッセージ】 私は組織とリーダーシップ、ネットワークの研究者です。投資銀行に勤めた後に研究者になりました。学生の皆さんは仕事との両立、又は新しいキャリアの確立にイノマネで奮闘なさると思います。一つ一つが皆さんの引き出しを増やすこととします。是非多くの引き出しを作ってください。</p>	
<p>【専門分野】 組織行動、リーダーシップ 経営組織</p>	
<p>【担当科目】 経営組織論</p>	
<p>【研究室（階と番号）】 6F28号</p>	
<p>【メールアドレス】 takada@im.i.hosei.ac.jp</p>	
<p>【主な経歴】 モルガン・スタンレー勤務を経て高千穂大学経営学部専任講師、助教授。 2008年法政学経営大学院准教授、2010年教授</p>	
<p>【主な研究業績/社会的活動】 『女性リーダー養成講座』単著 生産性出版 2016年 『人脈のできる人一人は誰のために一肌脱ぐのか』（単著）慶應義塾大学出版会 2010年8月 『危機対応のエフィカシーマネジメントーチーム効力感がカギを握るー』（単著）慶應義塾大学出版会 2003年1月 『高齢者の生活とリタイアメント・コミュニティ』（共著）創成社 2006年12月 高田朝子 鹿住倫世 恩蔵三穂 長谷川万希子「高齢者の生活とリタイアメント・コミュニティ」 創成社 2006年12月 石田英夫 星野裕志 編 『ケースメソッド入門』「CASE8 聖路加国際病院ー地下鉄サリン事件への対応」 慶應義塾大学出版会 2006年3月 慶應ビジネス・スクール編 高木晴夫監修 「第10章 組織文化と経営」「第12章 ケースおよび解説(分担)」『ビジネススクール・テキスト 組織マネジメント戦略』 有斐閣 2005年5月</p>	
<p>【所属学会・団体】 経営情報学会 経営行動科学学会、組織学会 Academy of Management</p>	
<p>【資格・表彰】</p>	

[研究業績・社会活動等報告書]

1. 研究業績

I. 著書

A. 単著

1. 高田朝子 『人脈のできる人』慶應義塾大学出版会 2010.
2. 高田朝子 『危機対応のエフィカシーマネジメント』慶應義塾大学出版会 2003.

B. 共著・部分執筆

1. 経営行動科学学会 『経営行動科学ハンドブック』「ネットワーク組織」中央経済社 2011. 部分執筆
2. 高田朝子・鹿住倫世・恩蔵三穂・長谷川万希子 「高齢者の生活とリタイアメント・コミュニティ」創成社 2006.
3. 石田英夫・星野裕志編 『ケースメソッド入門』「CASE8 聖路加国際病院一地下鉄サリン事件への対応」慶應義塾大学出版会 2006. 部分執筆
4. 慶應ビジネス・スクール編 高木晴夫監修 「第10章 組織文化と経営」「第12章 ケースおよび解説(分担)」『ビジネススクール・テキスト 組織マネジメント戦略』有斐閣 2005. 部分執筆

II. 論文

A. 査読あり

1. 高田朝子 「女性管理職育成についての定性的調査からの一考察 昇進の背中をおした事象とは何か」『経営行動科学』第26巻第3号, 2013, 233-248
2. Asako Takada, Eri Yokota “The Formation of Networks for Career Continuation: Examination of a Survey of Female Physicians” International Journal of Innovation, Management and Technology Vol.3, (6), pp793-798, 2012.

3. 高田朝子 「情報のハブを利用した危機対応についての一考察—D社の事例をもとに—」 『日本情報経営学会誌』 Vol.32.(2), pp.39-48,2012.
 4. 高田朝子 横田絵理 「キャリア継続につながるネットワーク形成—女性医師についての調査からの一考察—」 『経営行動科学』 Vol.23(1), pp.15-26, 2010.
 5. Asako Takada, Eri Yokota, “Organizational Culture and Emergency Response Actions: How Japanese Companies Behave?” Contemporary Management Research Vol.3 (4) pp.313-330, 2007.
 6. 高田朝子 「人材育成のための効果的観察学習—ハブパーソンを中心とした理論的枠組みの構築—」 『経営情報学会誌』 Vol.15(4), pp.77-87, 2007.
 7. 高田朝子 「危機対応時における「情報のハブ」の有用性—聖路加国際病院の事例研究から—」 『経営情報学会誌』 Vol.14(3), pp.47-62,2005.
 8. 北中英明・高田朝子・横田絵理 「ビジネス教育におけるエージェント・ベースト・アプローチの教育的効果についての一考察」 『経営行動科学』 Vol.17(3),pp101-114,2004.
 9. Asako Takada “The Role of Team Efficacy in Crisis Management” International Journal of Emergency Management. Vol. 2 (1/2), pp35-46, 2004.
 10. 高田朝子 「危機対応組織における内部モデルの変容」 『経営行動科学』 Vol.12(1),pp63-77,1998.
- B. 査読なし
1. 横田絵理・妹尾剛好・高田朝子・金子晋也 「日本企業における予算管理の実態調査—予算編成に関する分析—」 『企業会計』 Vol.65(2),pp78-83, 2013.
 2. 横田絵理・高田朝子・妹尾剛好・金子晋也 「日本企業におけるマネジメント・コントロール・システムとマネジャーの行動に関する実態調査」 『三田商学研究』 Vol.55(4) pp93-117, 2012.

3. 横田絵理・高田朝子 「女性上級管理職と組織マネジメントシステムに関する研究：実態調査の結果報告」 『三田商学研究』 Vol.53(1), pp117-145, 2010.
4. 高田朝子 「地域活性化のための有機的な女性管理職リーダーシップ訓練についての一試論」『地域イノベーション』 法政大学地域研究センター Vol.2 pp13-19, 2009.
5. 高田朝子・横田絵理 「日本企業の危機管理体制についての一考察—質問紙調査による検討」『2006年度 武蔵大学研究所紀要』 pp27-42.2007.
6. 高田朝子 「女性管理職のリーダーシップ育成についての一試案」『高千穂論叢』 41(4) pp1-14,2007.
7. 高田朝子 「日本におけるリタイアメント・コミュニティの可能性についての一考察」『総合研究』 高千穂大学総合研究所 No19 pp5-13,2006.
8. 高田朝子 「団塊の世代の住空間に関する研究ノート—リタイアメント・コミュニティの実現可能性—」 『総合研究』 高千穂大学総合研究所 N.19 pp5-13,2006.
9. 高田朝子 「米国におけるリタイアメント・コミュニティの現状と示唆」 『総合研究』 高千穂大学総合研究所 No18 15-30,2005.
10. Asako Takada, Eri Yokota “An Examination of the Risk Management System of Japanese Enterprises: Is Top-Down Response Almighty?” Proceedings of the 11th International Conference, The International Emergency Management Society, 2004.
11. 高田朝子 「突発的事態におけるグループ行動—行動の規則体系の再編成について—」『高千穂論叢』 37（1）P41-68, 2002.
12. Asako Takada. “Transformation of an Internal Model under Crisis Management” The Japanese Economy M.E.Sharpe , 2000.
13. 高木晴夫・高田朝子 「情報技術活用による企業内意思決定パターンの変化—危機対応電子会議室の場合について—」『日本労働研究雑誌』 第 467 号 p64-71 日本

労働研究機構 1999.

14. 高木晴夫・高田朝子・永戸哲也 「情報化組織はポリエージェントシステム(多主体複雑系)」 『経営行動研究年報』 Vol.6,1997.

- C. その他論文
1. 高田朝子 「ネットワークハブとしての KBS」 『三田評論』 慶應義塾大学出版会 第 1160 号 p42-43, 2012.

2. 高田朝子 「ミドル人脈の構造」『ワークスレビュー2008』リクルート ワークス研究所 p116-129, 2008.

3. 高田朝子 「危機対応時におけるチーム効力感の発動と循環についての一考察 — ユナイテッド航空 232 便パイロットチームの事例分析より —」 『慶應義塾経営管理学会リサーチペーパーシリーズ』 77 号 2002.

4. 高田朝子・高木晴夫 「チーム効力感がカギを握る」『リーダーシップ・ストラテジー』ダイヤモンド社 1(2) 2002.

5. Asako Takada “The Role of Team Efficacy in a State of Anomaly” Proceedings of Doctorial Consortium at 4th Pacific Asia Conference on Information Systems (PACIS200) June, 2000.

III. 競争的研究資金獲得

- A. 科研費 研究代表者
1. 平成 24 年度—平成 26 年度(予定) 日本学術振興会科学研究 基盤研究C「女性中堅社員の幹部への育成を支援する組織マネジメントシステムについての研究」研究代表者

2. 平成 21 年度—平成 23 年度 日本学術振興会科学研究 基盤研究C 「女性中間管理職のキャリアアップを支援するための組織マネジメントシステムの研究」研究代表者

B. 科研費 研究分担者

1. 平成 23 年度－平成 25 年度 日本学術振興会科学研究 基盤研究C「イノベーションを誘発するマネジメント・コントロールシステムについての研究」慶應義塾大学 横田絵理教授との共同研究 研究分担者
2. 平成 19 年度－平成 21 年度 日本学術振興会科学研究 基盤研究C 「女性上級管理職を活かす組織マネジメントシステムの研究」慶應義塾大学 横田絵理教授との共同研究 研究分担者
3. 平成 17 年度－平成 18 年度 日本学術振興会科学研究 基盤研究C 「電子カルテ普及後の新たな医療組織マネジメントシステム構築についての研究」慶應義塾大学 横田絵理教授との共同研究 研究分担者

C. その他の競争的研究助成金 研究代表者

1. 平成 19 年度 (株)リクルート ワークス研究所 研究助成 「出来るミドルの育成と処遇－女性ミドルを中心としたマネジメント能力を醸成するための組織作りについての研究－」研究代表者
2. 平成 18 年度 医療科学研究所 研究助成金 「女性医師のキャリアパス形成」研究代表者
3. 平成 15 年度 財団法人 セコム科学技術振興財団 研究助成採択研究 「危機対応時に情報の中心的発信者（ハブ）になる人物の発見と育成に関する研究－情報伝達と循環の観点から－」研究代表者

2. 社会活動

外部機関の委員

*経営情報学会 理事 ならびに学会誌編集委員

3. コンサルティング アドバイス業務

*S G S ジャパン株式会社 経営諮問委員(2004 年より現在)

4. その他

慶応丸の内シティキャンパス 講師 (2002 年より現在)